

令和5年4月7日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 リメンバー

代表者氏名 しょうじ さとし

会派の（ 調査研究 ・研修 ） 報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	令和5年2月10日（金）～ 令和 年 月 日（ ） 泊 日
2 調査研究または 研修の場所	ちくりん舎共同ラボ (NPO法人市民放射能監視センター)
3 調査研究事項 または研修名	市内生活者における薪ストーブ使用時に生じる焼却灰の放射能 測定
4 参加者氏名 (1名)	調査依頼者 しょうじ さとし
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり

**【概要】**

あきる野市指定管理者制度導入施設である秋川溪谷瀬音の湯（指定管理者：新四季創造株式会社）の運営に係るバイオマスボイラー及びスターリングエンジンの現在の使用状況を受け、下記のような疑問が生じたことから調査を行った。

現在、バイオマスボイラー等が不使用となっている理由は、バイオマス発電の際に生じる焼却灰の放射能測定値が、当初予定していた再利用可能な基準値を原発事故の影響で上回っていることから、再利用ではなく、産業廃棄物として処理を行わなくてはならず、高額な処理費用がかかるため不使用とすると、市の説明があったと認識している。

しかしながら、市が参照にしている検査値は古いものであり、直近の数値ではないことから、現在の数値を知る必要があると判断し、調査を実施した。

**【結果・感想等】**

- ・検査結果は、別添えの通りである。

瀬音の湯で使用されるバイオマスボイラー稼働のための原料とは異なるものだが、市民が生活の中で使用しているものであるという点から、薪ストーブや焚き火、事業などで使用があると見込まれるものとして、市内で伐採された木材を燃焼した灰の検査を行った。

現在、瀬音の湯においては、バイオマスのボイラー等を不使用にする事により焼却灰を生じさせないようにしているとのことだが、市内では、薪の利用などが生活の一部となっている方も少なくない。また、イベント等で薪を使用する方も少なくない。そのような状況において、一方では、基準値を上回っているためバイオマスを使用しない、また、一方では、市民の皆さんに注意喚起などが無いことから矛盾のようものを感じる。

・検査結果を踏まえた考察は、以下の通りである。

バイオマスボイラー稼働のための原料とは異なるものではあるが、市から説明があった、再利用できないという基準値を今回の検体では下回っているため、瀬音の湯におけるバイオマスボイラー不使用の理由は、成立しない可能性がある。

上記の結果があるから、国が事故後に緩和した基準を下回っているからといって、再稼働、燃焼灰の再利用ができるなどとは私は考えない。むしろ本来自然界には存在しなかった物質が紛れもなく現存しており、事故の影響を最確認することができた。

今回の調査の中で、原発がある福島県ではない、別荘地として今も人気がある土地でも、薪ストーブなどの使用における焼却灰において、高い数値が出ていることを知ることができたが、多くの住民、利用者は、その事実を知らない可能性がある。

同様に市内においても、基準値は下回っているものの、影響の可能性のあることについて、市は情報発信の仕方を考える必要性があるのではないかと感じている。

また、今後の環境負荷低減に向けた取り組みの中では、バイオマスボイラーなどは、上記の理由から、いくら基準を下回っているかといって、選択することはないであろう。ともすれば、仮に原発事故がなければ大いに推進されていくべき施策だったとも考えられるが、大切なことは、事故の影響を改めて考え、核科学に対して、本市も事故の影響を受けた自治体としてどのような姿勢を取るかということだと考える。

エネルギー問題においては、この生活を維持するために、資源を枯渇することを辞さない、もしくは原子力に頼るといったこれまでであったかと思うが、そもそもの生活のあり方を見つめ直さなくてはならない時に来ているのではないだろうか。

依頼受付番号  
23020602

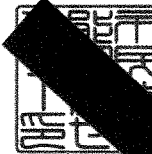
# ちくりん舎 放射能測定結果報告書

東海林 (しょうじ) 悟 様  
TEL 070-5566-7056 FAX e-Mail luciole.313@gmail.com  
種別 非会員 会員No.

報告書作成日  
2023年2月13日

ちくりん舎 共同ラボ  
(NPO 法人市民放射能監視センター)  
lab.chikurin@gmail.com  
042-519-9378

〒190-0181 東京都西多摩郡日の出町大久野 7444



先に依頼 (申込日 2023年2月6日) を受けました検体について、測定を行った結果を下記の通りご報告いたします。

測定結果のご利用に関しては全て依頼者に委ねます。但しその利用に於いて測定値等が原因で生じた損害等については、当センターとしては一切責任は取れませんのでご承知置き下さい。詳しくはちくりん舎 HP の「測定結果の取り扱い」をご覧ください。

検体名 薪ストーブの灰

検体番号 23020602 - 1

測定結果 (測定器: Ge1 <sup>*1</sup> )			
重量	測定容器	測定日	測定時間
939.8 g	2000-12	2023年2月10日	0.5 時間
Cs134	検出	4.4 ± 1.8 Bq/kg (95%信頼区間) 【検出限界値 Bq/kg】 <sup>*2</sup>	
Cs137	検出	150 ± 32 Bq/kg (95%信頼区間) 【検出限界値 Bq/kg】 <sup>*2</sup>	
備考 検体採取場所: 東京都あきる野市 ブナ、桜、柿の木の薪。五日市市小中野、樽、中村で採取。2袋ありますが混ぜて20容器で測定してください。 検体採取日: 2023年2月5日 Ge 測定の場合は「検体採取日」時点でのセシウム濃度値となります (半減期により遡及計算)。			
測定者	浜田	確認者	青木一政
			承認印

別添シート: (無し) 有り ( )

## ※1 測定器説明

Ge: 高純度ゲルマニウム半導体測定器 (フランス Itech 社製), InterWinner(Itech 社製)

NaI: シンチレータ測定器システム (ベラルーシ ATOMTEX 社製 AT1320A)

## ※2 検出下限値

国際標準 ISO11929 による MDA (Minimum Detection Limit) 値 (95%信頼区間相当)。「検出」の場合は検出限界値は表示されません。